

人材システム改革構想・概要

- 提案構想名 「名大高等研究院研究者育成特別プログラム」
- 総括責任者名 「総長 平野 眞一」
- 提案機関名 「国立大学法人 名古屋大学」

機関の現状

名古屋大学は教員数約1770名の中規模大学であるが、野依博士のノーベル化学賞受賞、赤崎博士の青色発光ダイオード開発、等の傑出した研究と共に、科学技術分野では、大型科学研究費補助金（特別推進研究や特定領域研究）の約5-10%、21世紀COE採択数でも約10%を占めている。タイムズ紙が発表した大学ランキングでは日本の大学としては5位、世界では129位に位置している。

名古屋大学高等研究院は2002年より若手研究者対象の研究プロジェクト支援を実施し、好結果を得つつある。理学研究科生命理学専攻では21世紀COEにおいて、テニユア・トラック制度の試行として若手独立研究チームを創設。他の生命系研究科（医学、農学、工学）と共同して本制度の拡充を計画している。

21世紀COEを中心に特任教授・助教授として、任期制・年俸制を導入している。

人材システム改革構想

高等研究院に研究者育成特別プログラム（テニユア・トラック制度）を導入する。高等研究院が候補者を国際公募・選考する。採用された若手研究者へは、本プログラムにより人件費、研究費、研究員雇用費等を支給し、高等研究院が管理・運営する「高等総合研究館」に研究室および実験室を貸与し、独立した研究室運営を支援する。教育者としての育成は、対応する推薦部局が支援する。任期終了時には高等研究院が評価し、推薦部局に対してテニユア付与の推薦を行う。

充実した研究評価体制を有する高等研究院は、優れたテニユア候補者を客観的に選考すると共に、個々の研究活動の支援および高等研究院での活動を通して高度で広い視野と高い研究者倫理を有する若手研究者を育成する。

本プログラムの効果が認められれば、各部局で採用する教員の一部を常にこのプログラムで運用することになる。そのための経過措置として全学からの定員移動・資金の手当て、等を計画している。

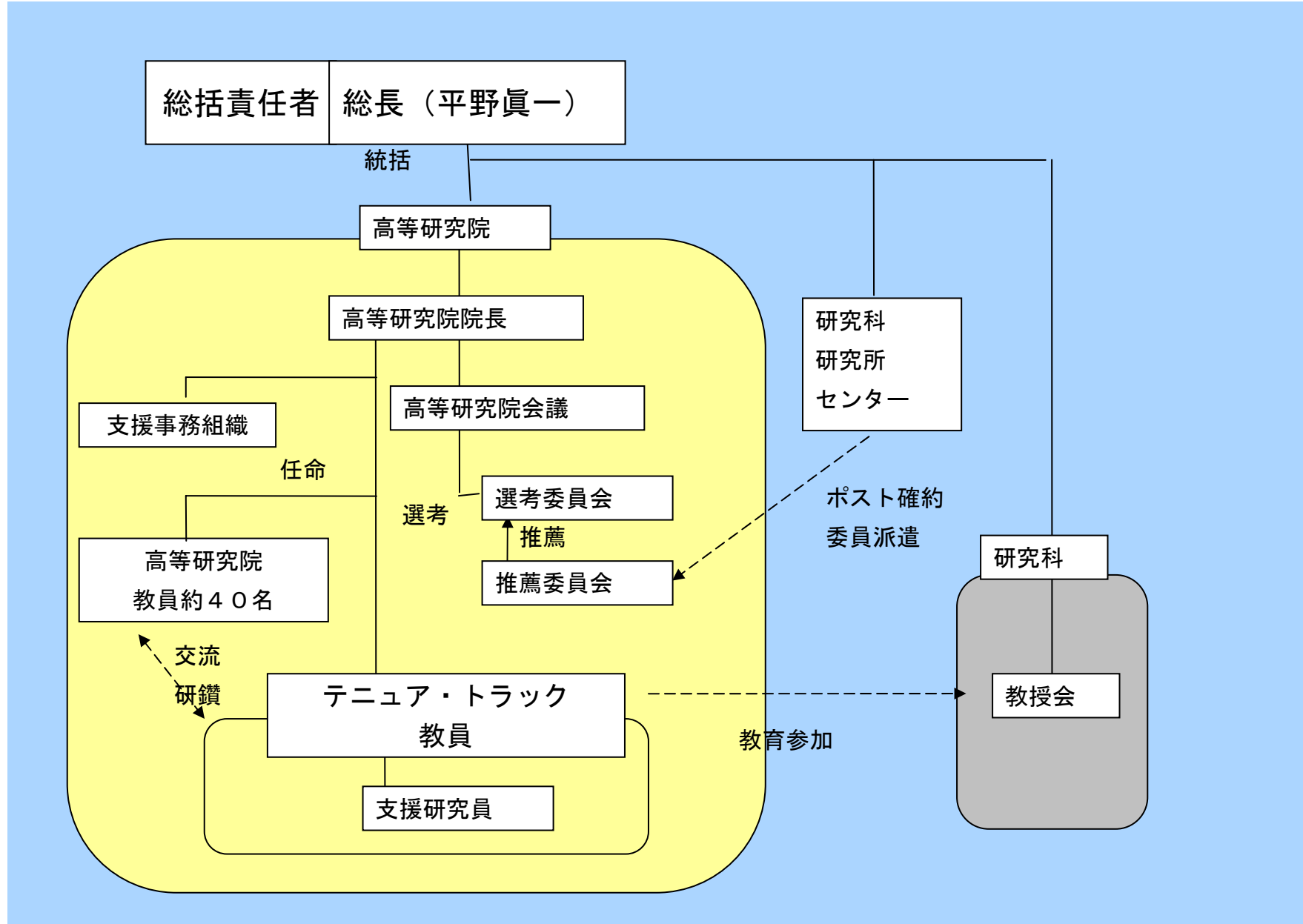
人材システム改革における達成目標（ミッションステートメント）

本プログラムでは、自然科学系全分野を対象に若手研究者を採用する。本プログラムの達成目標は、全員が卓越した研究成果をあげてテニユアを得ることである。

研究者の任期は5年とし、3年目と最終年に中間審査および最終審査（テニユア審査）を行う。3年目の中間審査では、残り2年間テニユア・トラックとして継続するか否かの審査を行う。継続の場合は2年後にテニユア審査を行う。継続不可であれば、高等研究院は推薦部局に対して、テニユア・トラックではない任期付き教員として別の職種への移動を推奨する。5年目のテニユア審査では、可となれば推薦部局のテニユア教員となる。

テニユアを有する若手研究者についてであるが、高等研究院がこれまで支援した若手研究者の大部分は、3-4年以内に同一部局内で昇格ないし他大学へ転出している。高等研究院の若手研究者選考基準を満たすテニユア候補者であれば、当初採用の半数は最終年度を待たずに推薦部局、学内他部局、学外のテニユア教員職を得るものと予想される。その際は新たな公募を行う。

名大高等研究院研究者育成特別プログラム実施体制



名大高等研究院 研究者育成特別プログラム実施内容

本プログラムの特徴

- ・高度な若手研究者育成(高度知的環境の提供、研究倫理指導)
- ・高度研究者による選考(国際諮問委員会、外部レフェリー、院友)
- ・自立的研究を支援(研究費、研究スペース、研究員)
- ・研究科など既存部局によるテニユア機会の保証
- ・高等研究院が主体となって実施

本プログラムの内容

- ・自然科学系全分野を対象に国際公募
- ・3年後に中間審査、5年後にテニユア審査
＋毎年進行状況を評価
- ・高等研究院に所属し、自立的研究
- ・教育・授業を関連研究科で担当
- ・高等研究院セミナー・フォーラムへの参加
- ・研究倫理指導

名大高等研究院とは

- ・名大学術憲章の趣旨に基づき、2002年に創立。
- ・高度研究を行う学内教員(約40名)に研究スペース、研究専念環境を提供、管理運営、教育の軽減、免除
- ・若手・萌芽的研究を重点的に支援
- ・セミナー、フォーラム、スーパーレクチャーの主催

名大人材改革将来構想

- ・高度研究者育成システムを名古屋大学全体に拡大
- ・人文・社会科学分野においても部分的に導入